

# 訪日外国人消費動向調査 【トピックス分析】

## 平成26年訪日外国人観光客の地方訪問状況 ～観光客の2人に1人が2大都市圏以外の地方を訪問

平成27年10月

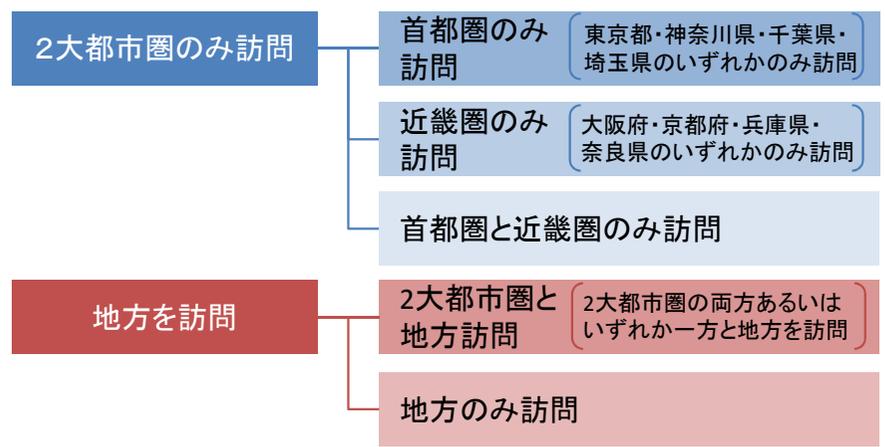
観光庁観光戦略課調査室

# 2人に1人の観光客が東京・大阪大都市圏以外の地方を訪問

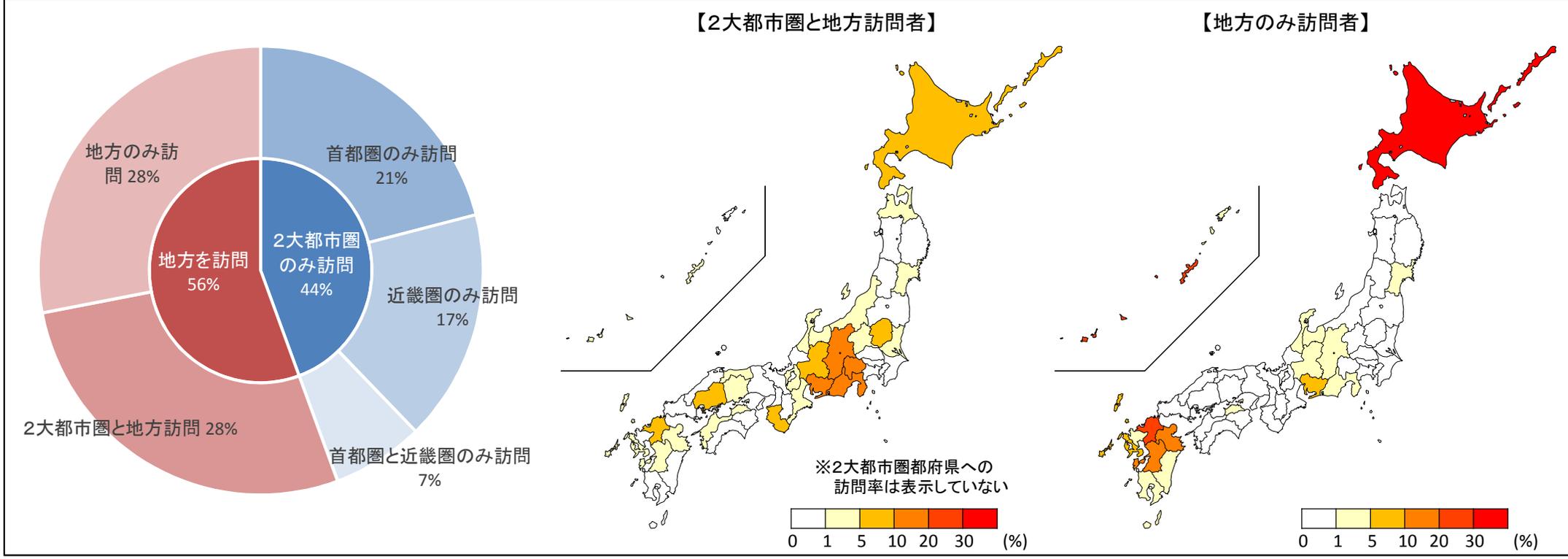


- 平成26年の訪日外国人消費動向調査において、「観光・レジャー」目的客(以降、観光客と記載)の都道府県別訪問率を見ると、2大都市圏のみ訪問した観光客は44%なのに対し、地方を訪問した割合は56%を占める。また、地方のみを訪問した割合は28%であった。
- 2大都市圏と地方を訪問した観光客は中部地方への訪問率が高く、地方のみ訪問した観光客は北海道や九州、沖縄県への訪問率が高い。
- 今回のトピックス分析では、地方を訪れた観光客に焦点を当て、どの地方を訪れているのかを把握するとともに、地方訪問者の客層や旅行中の活動などについて詳細分析を行う。

図表1 訪問地のタイプ



図表2 地方訪問率

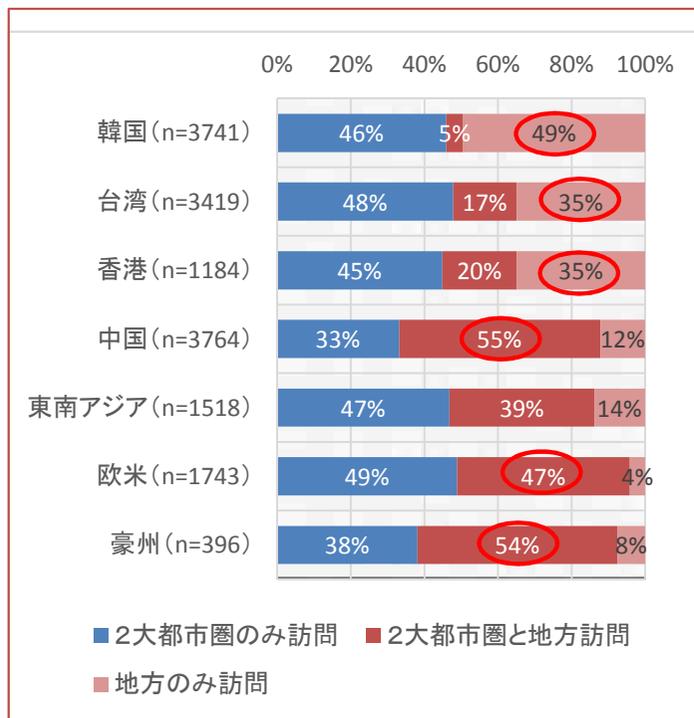


注1) 上記の数値は、平成26年1-3月期・4-6月期・7-9月期・10-12月期の「観光・レジャー」目的の標本に対して国籍・地域別及び四半期別のJNTO訪日外客数によるウェイトバック処理を施して算出している。  
 注2) 平成26年調査では、到着空港及び出国空港は都道府県の訪問地としてカウントしていない。

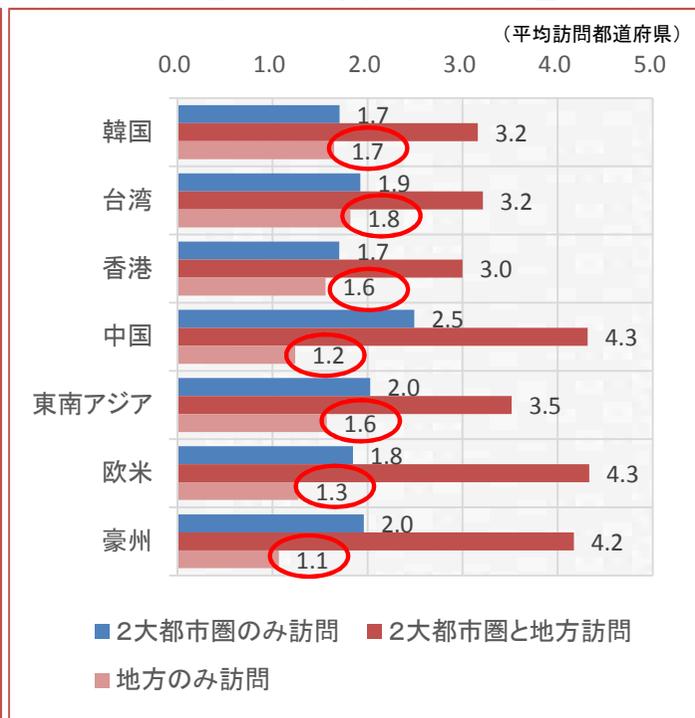
# 地方訪問率は中国や豪州で6割を超える

- 国籍・地域別に訪問地タイプの比率をみると、中国では「2大都市圏と地方訪問」および「地方のみ訪問」を足した比率(地方を訪問した比率)が7割弱と高く、豪州も6割超と高い。その他の国籍・地域では5割程度となっている。
- 「地方のみ訪問」の比率は韓国で49%と高く、台湾や香港でも3割強と高い。
- 訪問地タイプ別に平均訪問都道府県数をみると、いずれの国籍・地域でも「地方のみ訪問」の訪問都道府県数は2つ以下と少ない。
- 訪問地タイプ別に出入国空港をみると、韓国や香港、中国では「2大都市圏と地方訪問」で「出入国のいずれかで地方空港利用」の比率が他の国籍・地域に比べてやや高い。また、韓国や台湾、香港、中国の「地方のみ訪問」では、出入とも地方空港を利用する割合がいずれも9割超と高い。

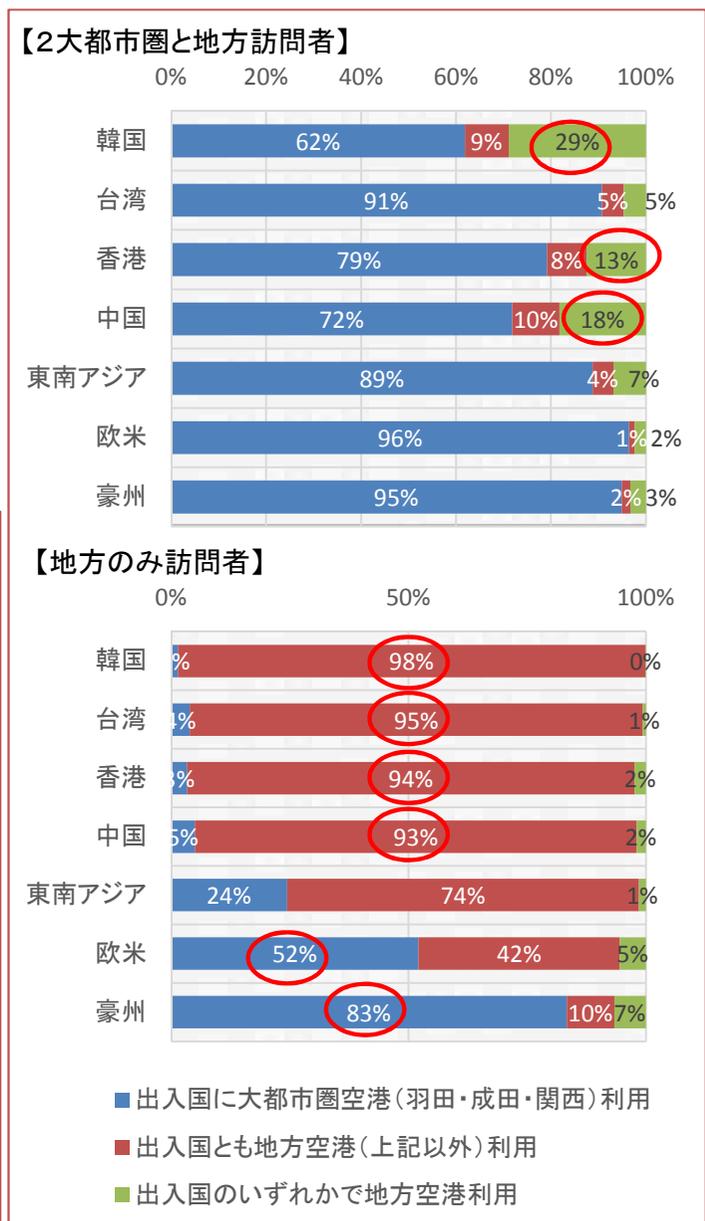
図表3 訪問地タイプ別比率(国籍・地域別)



図表4 訪問地タイプ別平均訪問都道府県数



図表5 訪問地タイプと出入国空港

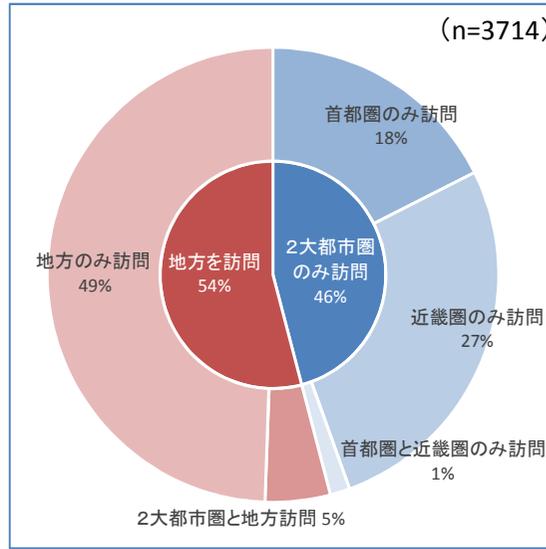


注1) 上記の数値は平成26年1-3月期、4-6月期、7-9月期、10-12月期調査で得られた「観光・レジャー」目的客の標本平均である。また、「東南アジア」にはタイ・シンガポール・マレーシア・インドネシア・フィリピン・ベトナム、「欧米」には英国・ドイツ・フランス・米国・カナダが含まれる。

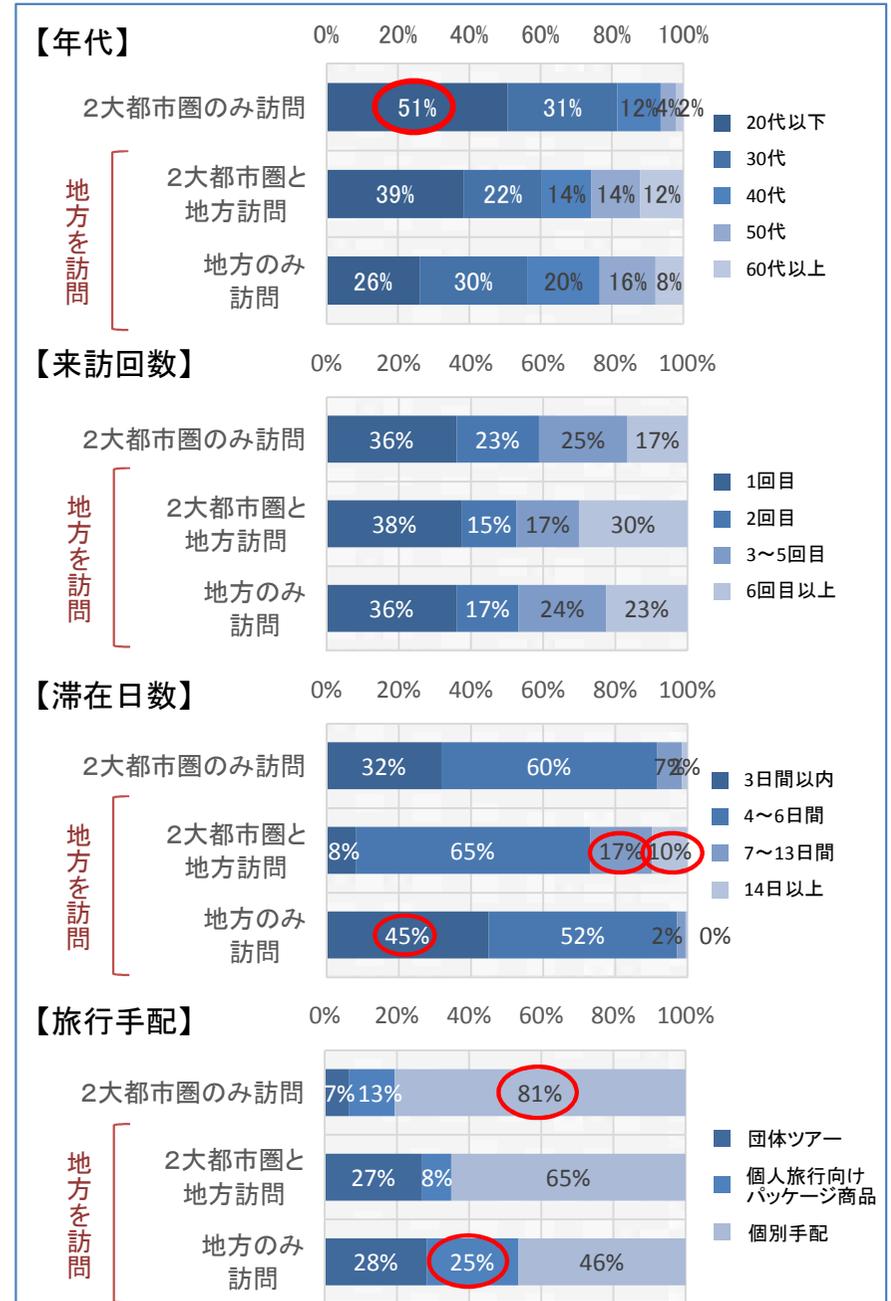
# 【韓国】地方のみ訪問者が約半数と高く、訪問地は九州に集中

- 韓国では、54%が地方を訪問しており、「地方のみ訪問」が49%を占める。
- 「2大都市圏と地方訪問」では福岡県、「地方のみ訪問」では福岡県や大分県、熊本県への訪問率が高い。
- 訪問地タイプ別に客層を見ると、「2大都市圏のみ訪問」は20代以下や個別手配の比率が高い。「2大都市圏と地方訪問」では滞在日数7日間以上、「地方のみ訪問」で滞在日数3日間以内や個人旅行向けパッケージ商品の比率が高い。

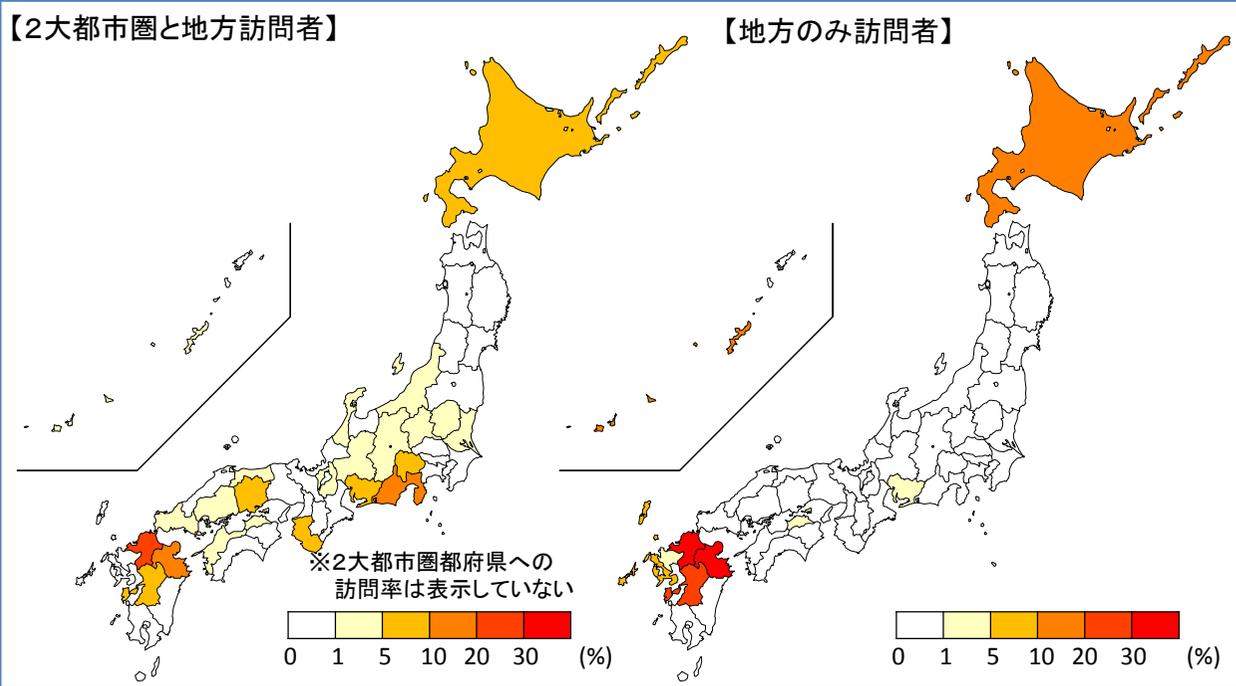
図表6 訪問地タイプ別比率



図表8 訪問地タイプ別客層



図表7 訪問地タイプと地方訪問率

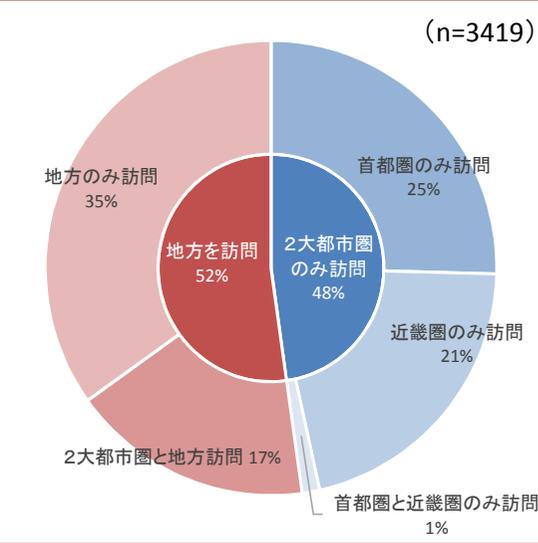


注1) 上記の数値は、平成26年1-3月期、4-6月期、7-9月期、10-12月期調査で得られた「観光・レジャー」目的客の回答による標本平均により算出した。

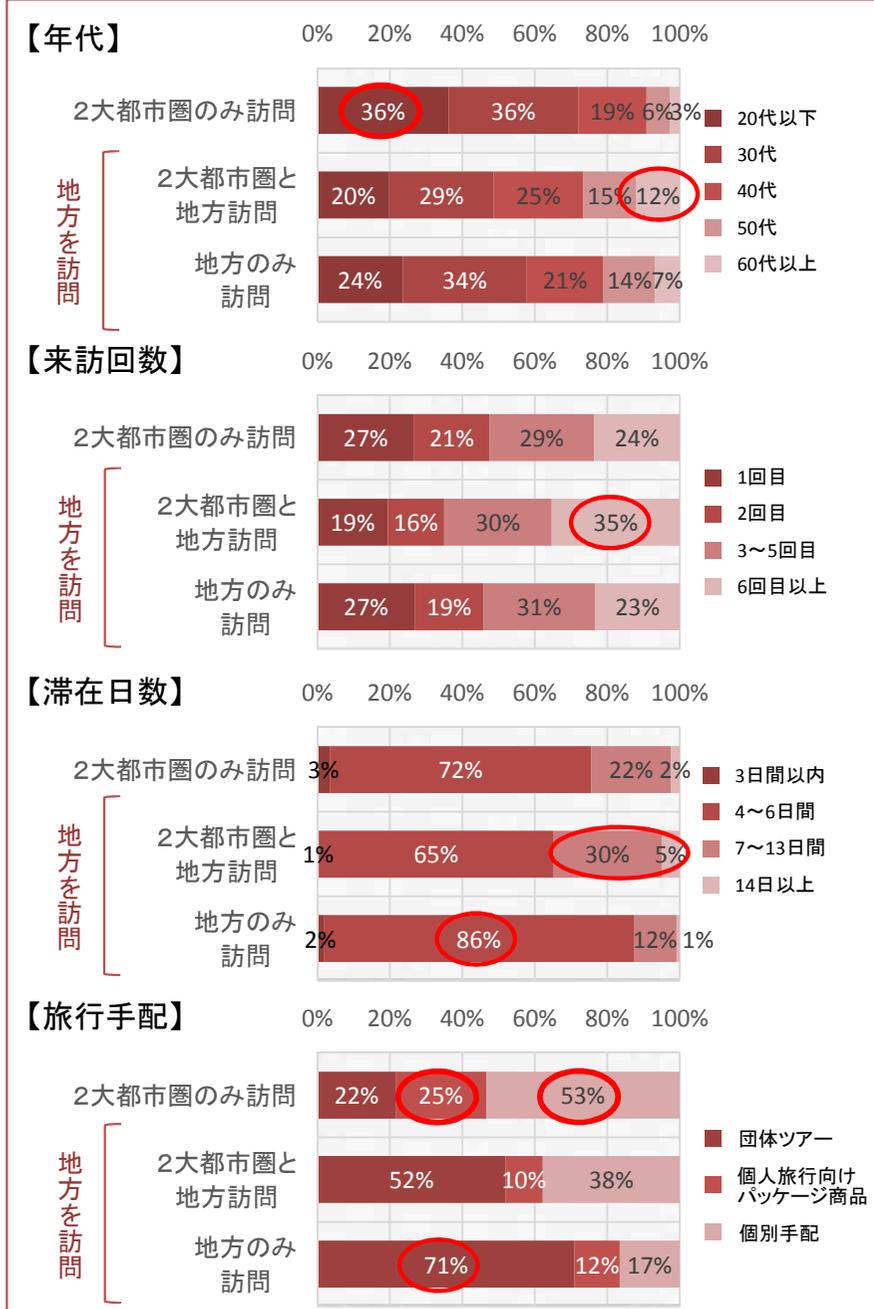
# 【台湾】地方のみ訪問者は7割が団体ツアー。北海道に集中

- 台湾では、52%が地方を訪問しており、「地方のみ訪問」が35%を占める。
- 「地方のみ訪問」は北海道や中部地方、九州地方、沖縄県への訪問率が高い。
- 訪問地タイプ別に客層を見ると、「2大都市圏のみ訪問」は20代以下や個人旅行向けパッケージ商品、個別手配が多く、「2大都市圏と地方訪問」では60代以上や来訪回数6回目以上、「地方のみ訪問」では滞在日数4～6日間や団体ツアーの比率が高い。

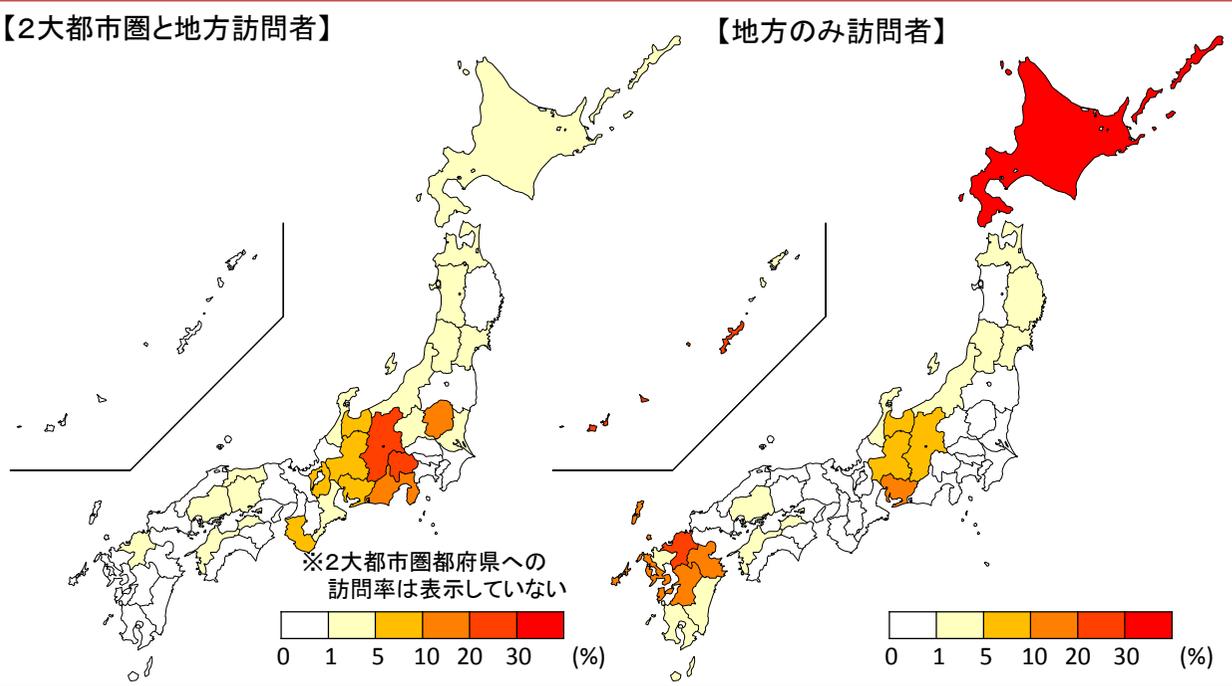
図表9 訪問地タイプ別比率



図表11 訪問地タイプ別客層



図表10 訪問地タイプと地方訪問率

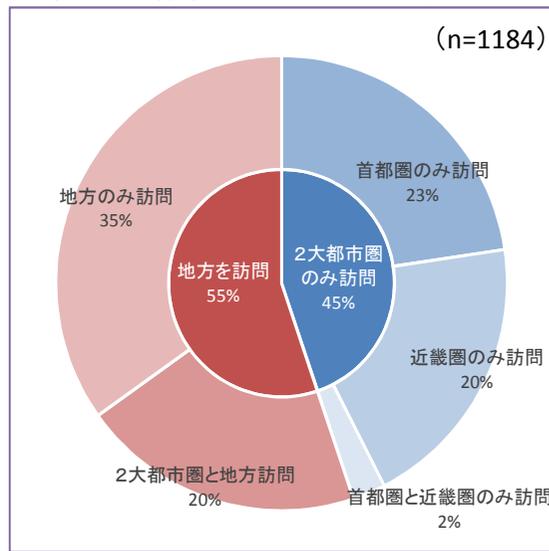


注1) 上記の数値は、平成26年1-3月期、4-6月期、7-9月期、10-12月期調査で得られた「観光・レジャー」目的客の回答による標本平均により算出した。

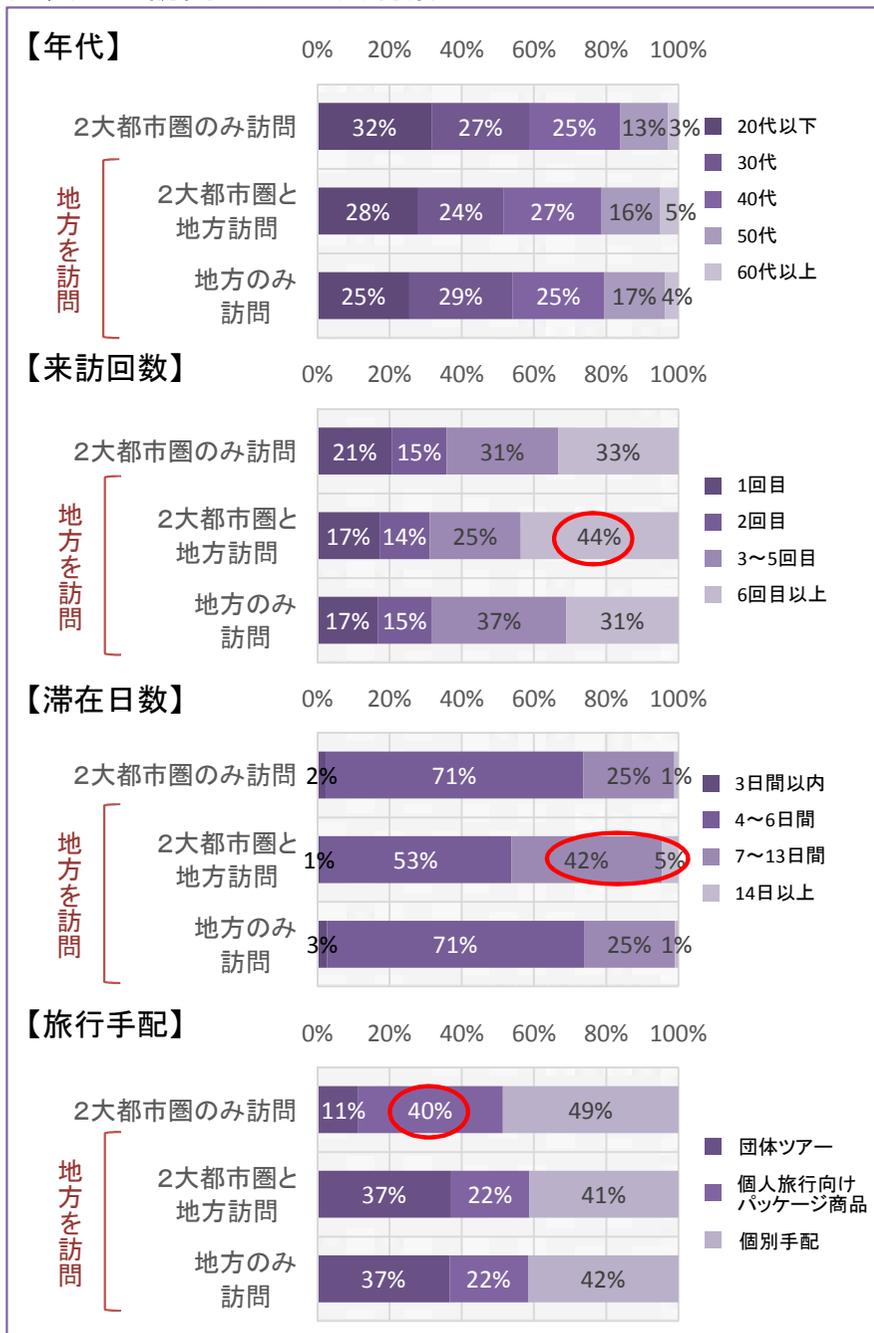
# 【香港】地方のみ訪問者は北海道への訪問率が高い

- 香港では、55%が地方を訪問しており、「地方のみ訪問」が35%を占める。
- 「地方のみ訪問」は北海道や沖縄県への訪問率が高い。
- 訪問地タイプ別に客層を見ると、「2大都市圏のみ訪問」では、個人旅行向けパッケージ商品の利用率が高い。「2大都市圏と地方訪問」では来訪回数6回目以上や滞在日数7日間以上の比率が高い。

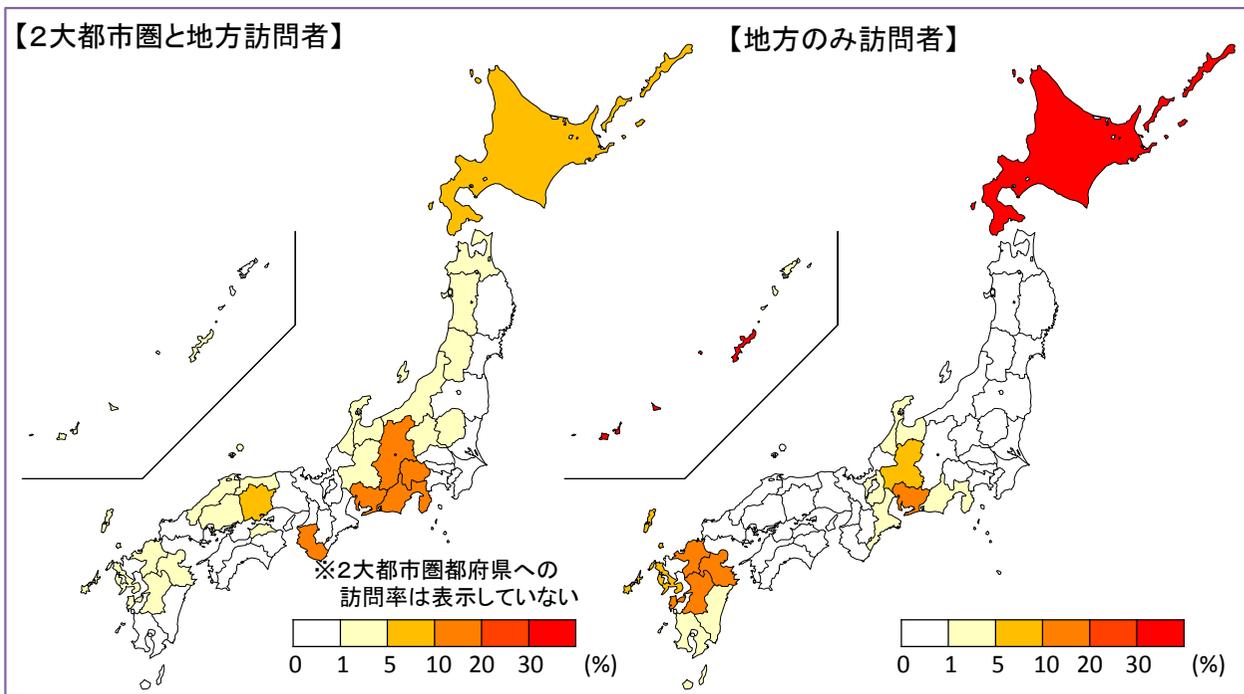
図表12 訪問地タイプ別比率



図表14 訪問地タイプ別客層



図表13 訪問地タイプと地方訪問率

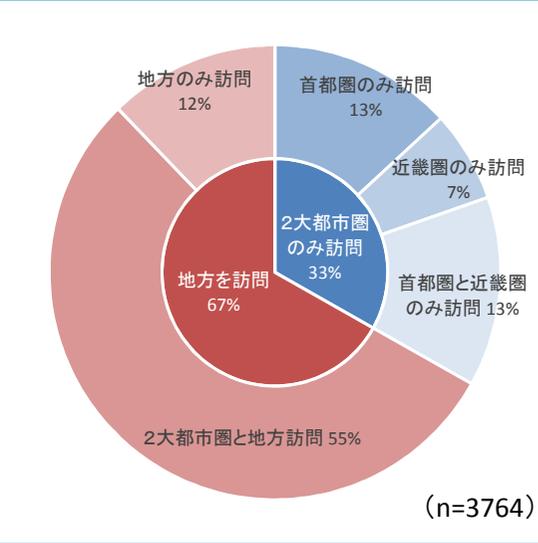


注1) 上記の数値は、平成26年1-3月期、4-6月期、7-9月期、10-12月期調査で得られた「観光・レジャー」目的客の回答による標本平均により算出した。

# 【中国】2大都市圏と地方の訪問者は中部地方への訪問率が高い

- 中国では、67%が地方を訪問している。また、「2大都市圏と地方訪問」の比率が55%と高い。
- 「2大都市圏と地方訪問」は山梨県や静岡県・愛知県、「地方のみ訪問」は北海道や沖縄県への訪問率が2割超と高い。
- 訪問地タイプ別に客層の違いをみると、「2大都市圏のみ訪問」は20代以下や滞在日数7~13日間、個別手配が高く、「2大都市圏と地方訪問」は初来訪者や団体ツアーが多い。

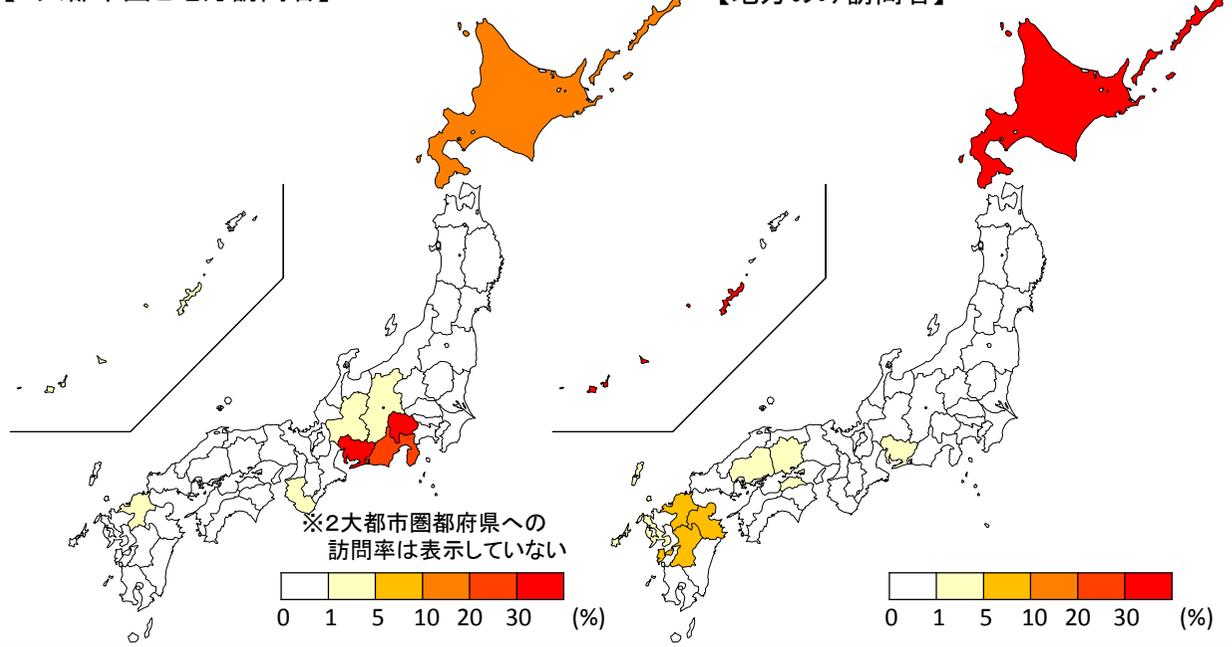
図表15 訪問地タイプ別比率



図表16 訪問地タイプと地方訪問率

【2大都市圏と地方訪問者】

【地方のみ訪問者】

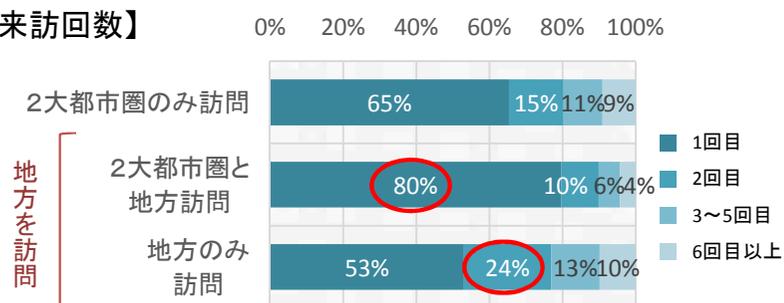


図表17 訪問地タイプ別客層

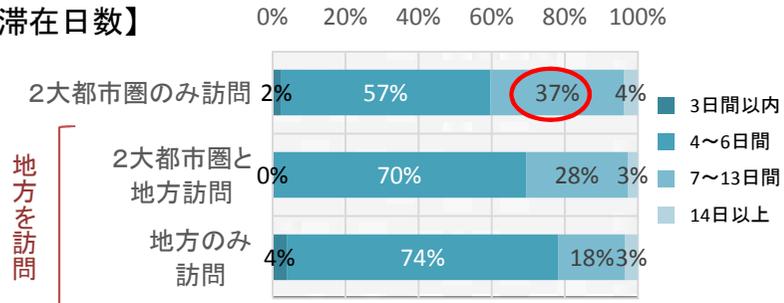
【年代】



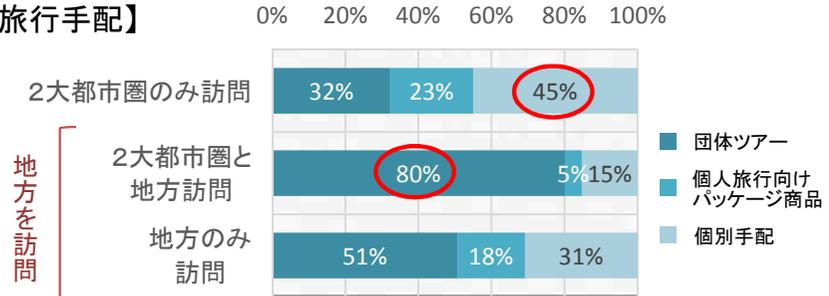
【来訪回数】



【滞在日数】



【旅行手配】

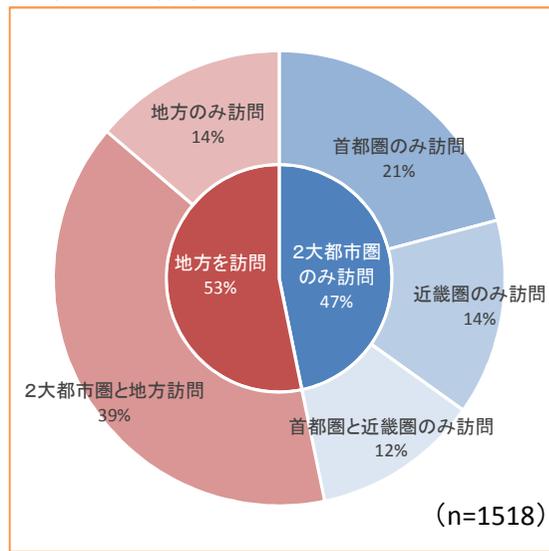


注1) 上記の数値は、平成26年1-3月期、4-6月期、7-9月期、10-12月期調査で得られた「観光・レジャー」目的客の回答による標本平均により算出した。

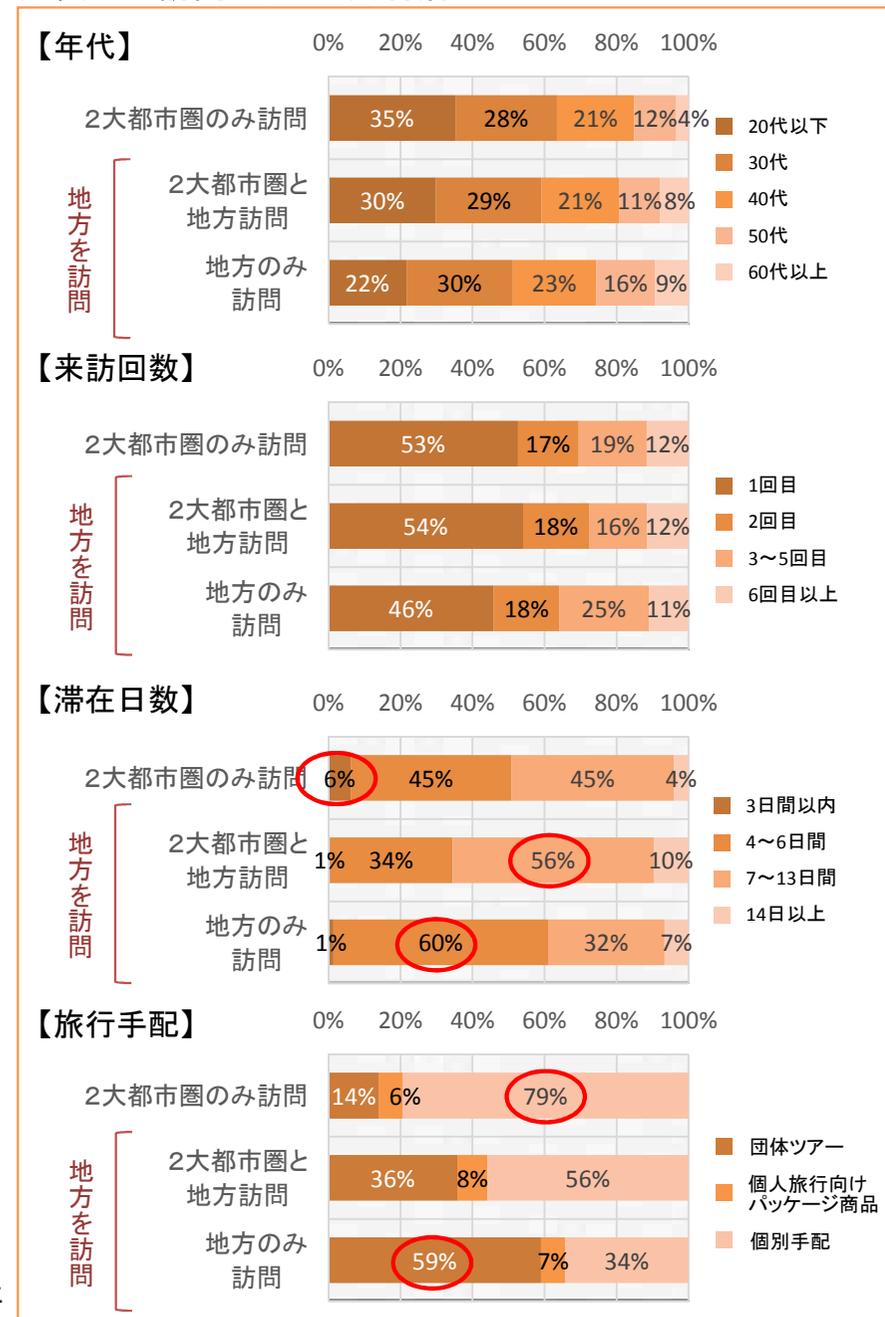
# 【東南アジア】地方のみ訪問者は北海道への訪問率が高い

- 東南アジアでは、53%が地方を訪問しており、「2大都市圏と地方訪問」が39%を占める。
- 「2大都市圏と地方訪問」は山梨県や静岡県、愛知県、「地方のみ訪問」は北海道や福岡県への訪問率が2割超と高い。
- 訪問地タイプ別に客層の違いをみると、「2大都市圏のみ訪問」は滞在日数3日以内や個別手配が高く、「2大都市圏と地方訪問」は滞在日数7～13日間、「地方のみ訪問」は滞在日数4～6日間や団体ツアーの比率が高い。

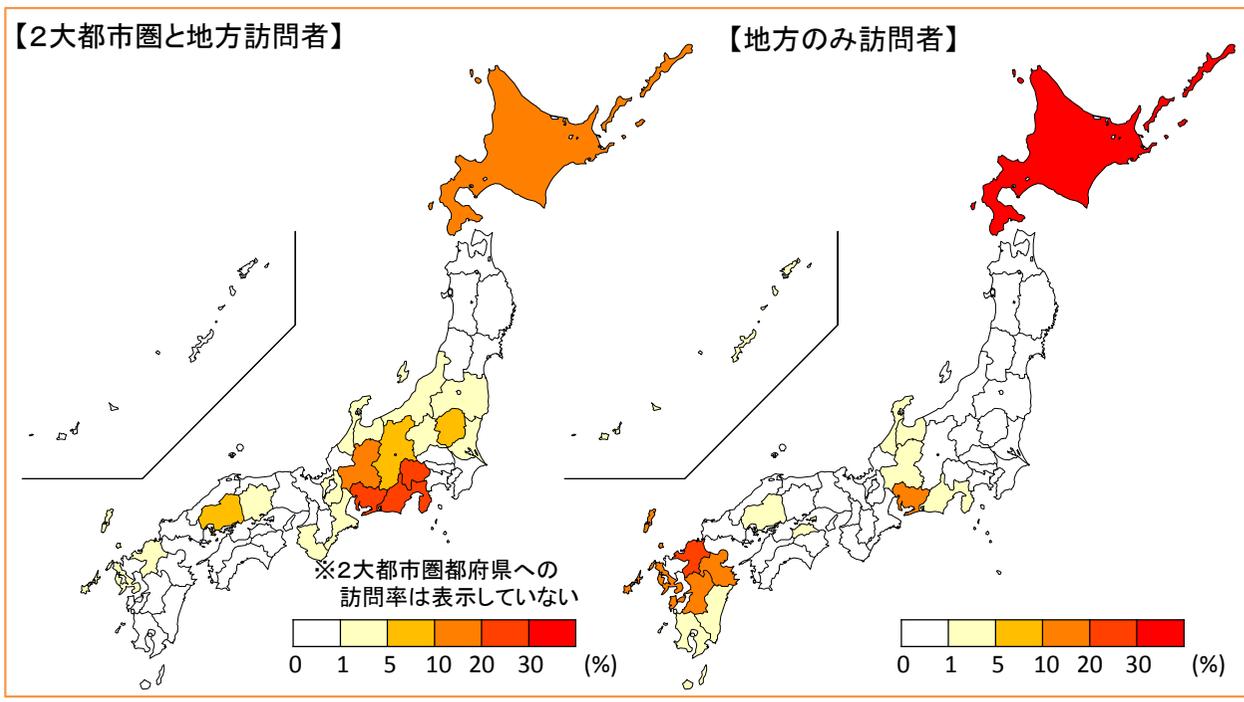
図表18 訪問地タイプ別比率



図表20 訪問地タイプ別客層



図表19 訪問地タイプと地方訪問率

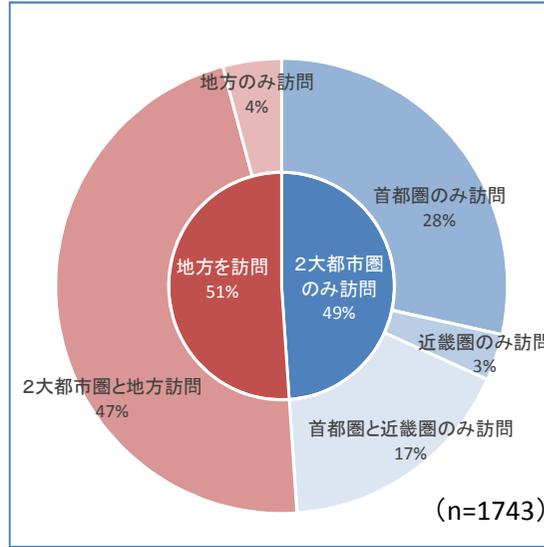


注1) 上記の数値は、平成26年1-3月期、4-6月期、7-9月期、10-12月期調査で得られた「観光・レジャー」目的客の回答による標本平均により算出した。東南アジアはタイ・シンガポール・マレーシア・インドネシア・フィリピン・ベトナムを指す。

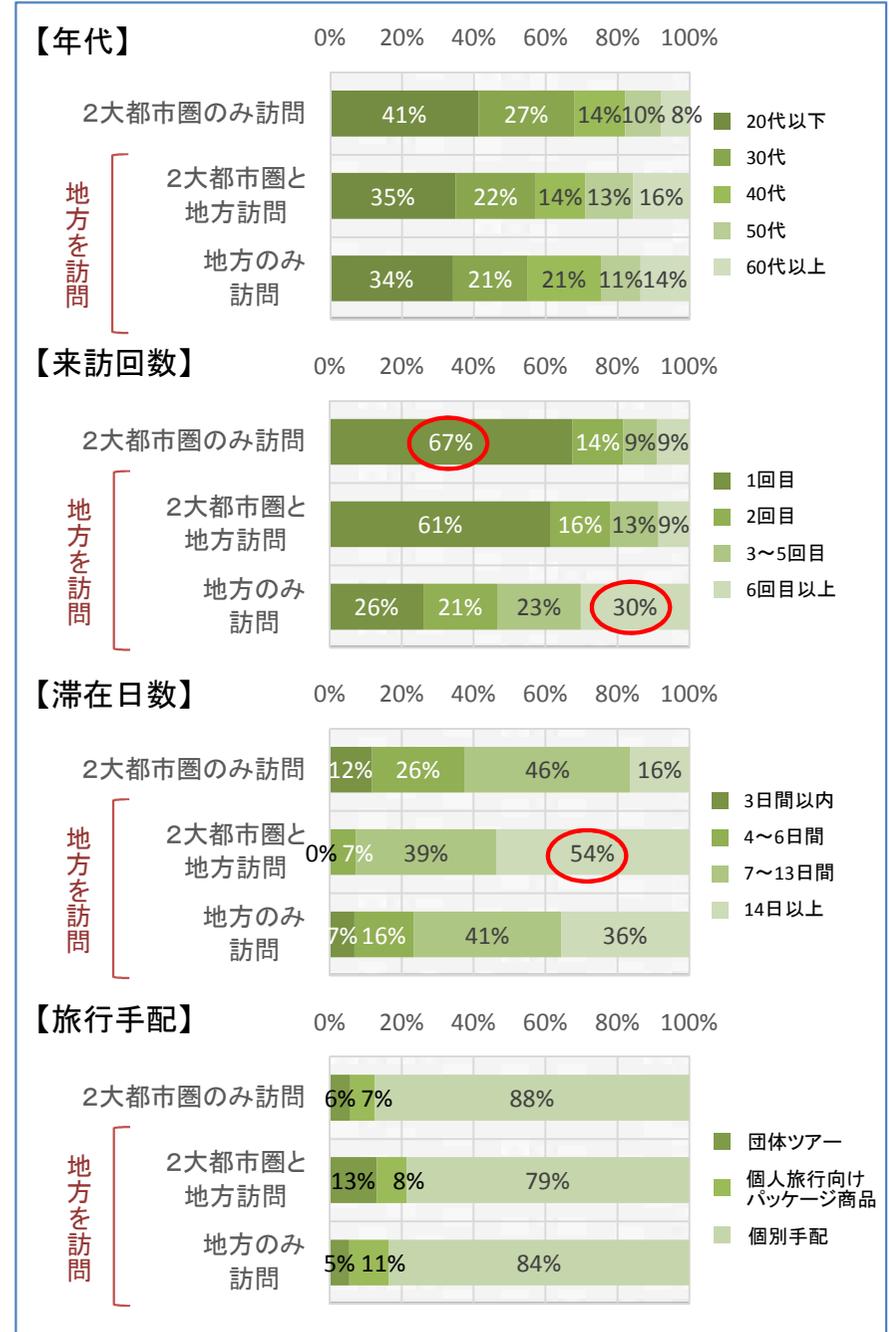
# 【欧米】大都市・地方訪問者は広島、地方のみは北海道に集中

- 欧米では、51%が地方を訪問している。また、「2大都市圏と地方訪問」の比率は47%と高い。
- 「2大都市圏と地方訪問」は広島県への訪問率が高く、「地方のみ訪問」は北海道への訪問率が高い。
- 訪問地タイプ別に客層の違いをみると、「2大都市圏のみ訪問」は初来訪者が67%、「2大都市圏のみ訪問」は滞在日数14日以上が54%、「地方のみ訪問」は来訪回数6回目以上の比率が30%と高い。

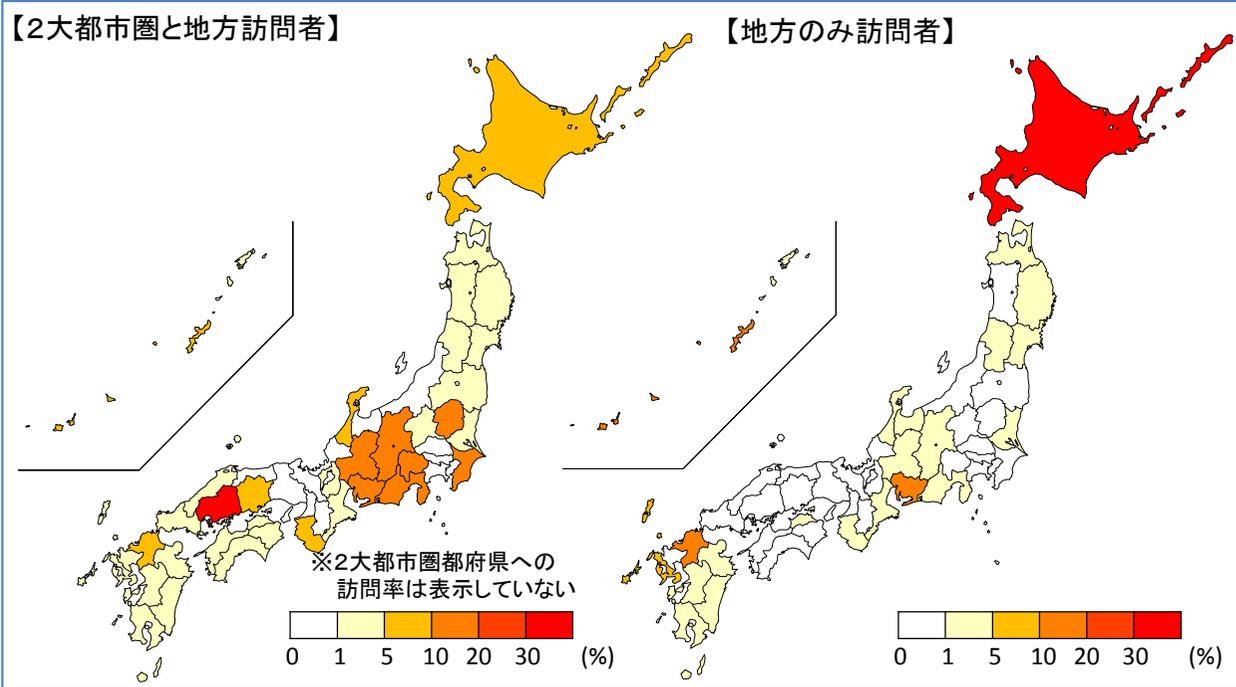
図表21 訪問地タイプ別比率



図表23 訪問地タイプ別客層



図表22 訪問地タイプと地方訪問率

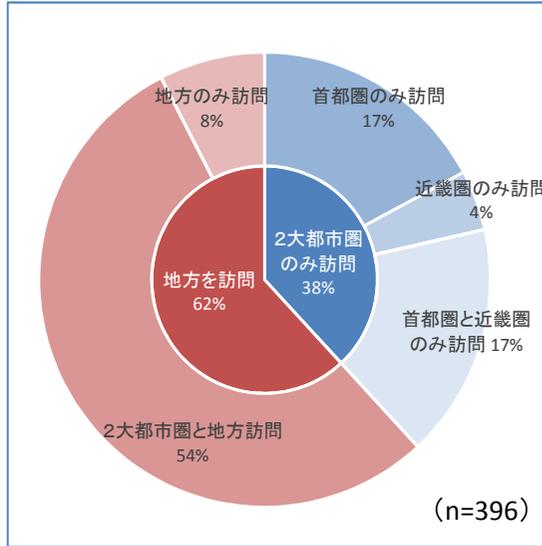


注1) 上記の数値は、平成26年1-3月期、4-6月期、7-9月期、10-12月期調査で得られた「観光・レジャー」目的客の回答による標本平均により算出した。「欧米」は英国・ドイツ・フランス・米国・カナダを指す。

# 【豪州】地方のみ訪問者は北海道と長野県に集中

- 豪州では、62%が地方を訪問している。また、「2大都市圏と地方訪問」の比率は54%と高い。
- 「2大都市圏と地方訪問」は広島県や中部地方への訪問率が高く、「地方のみ訪問」は北海道や長野県への訪問率が高い。
- 訪問地タイプ別に客層の違いをみると、「2大都市圏と地方訪問」は滞在日数14日以上の比率が57%と高く、「地方のみ訪問」は来訪回数3～5回目以上の比率が5割超と高い。

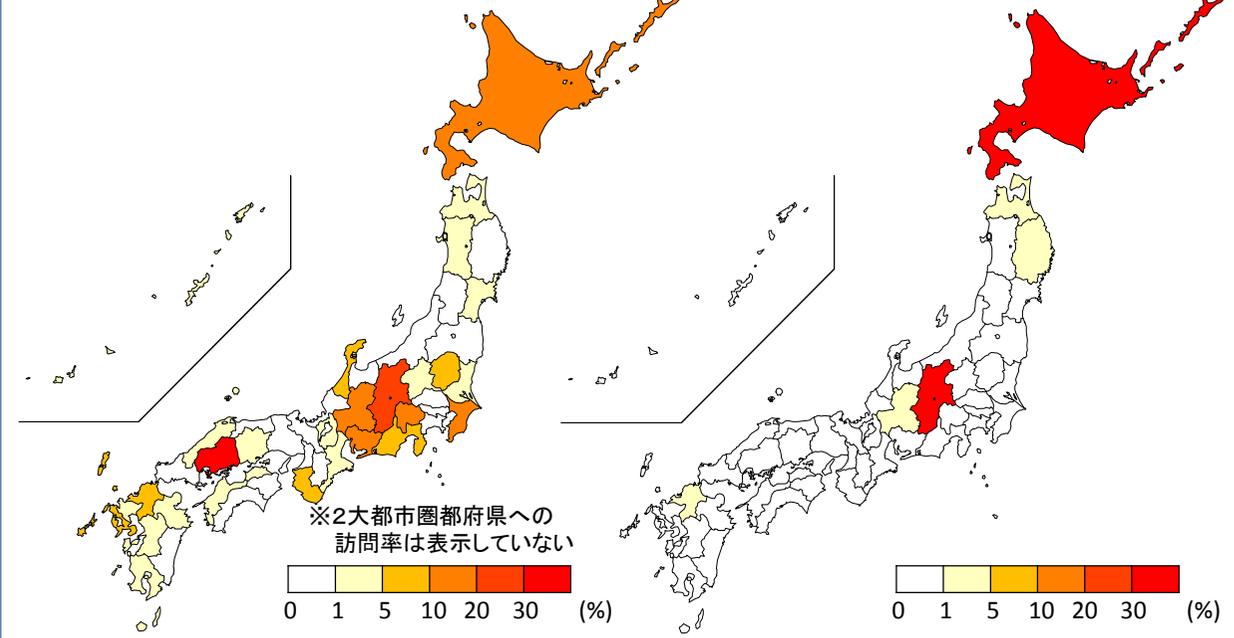
図表24 訪問地タイプ別比率



図表25 訪問地タイプと地方訪問率

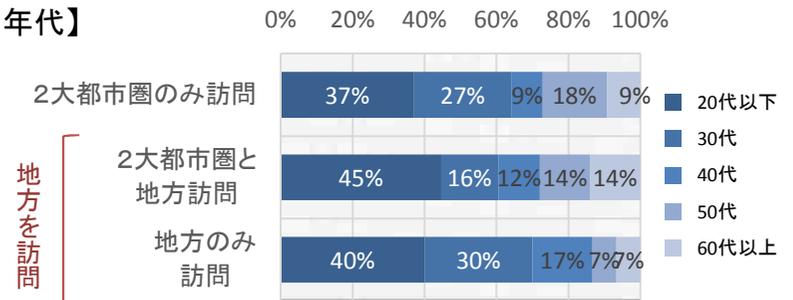
【2大都市圏と地方訪問者】

【地方のみ訪問者】

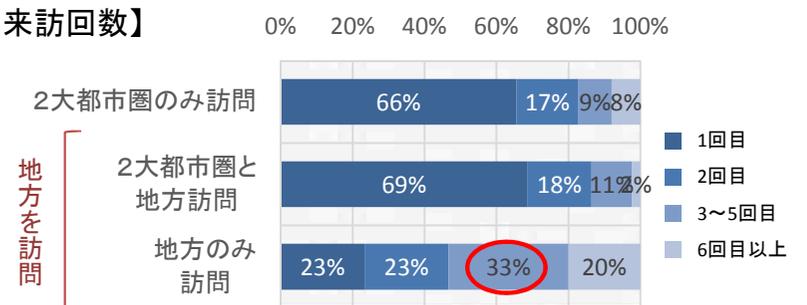


図表26 訪問地タイプ別客層

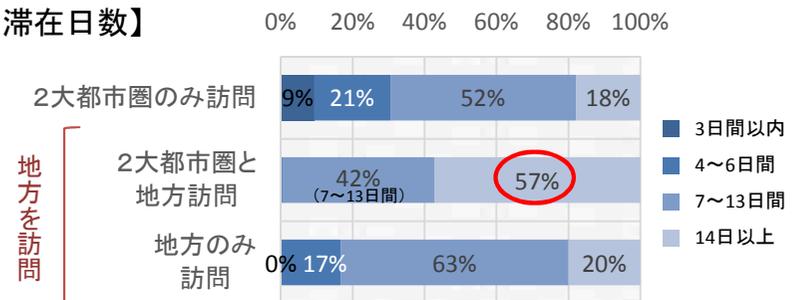
【年代】



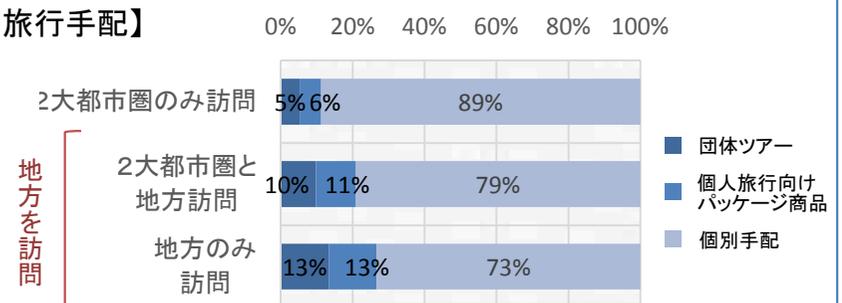
【来訪回数】



【滞在日数】



【旅行手配】



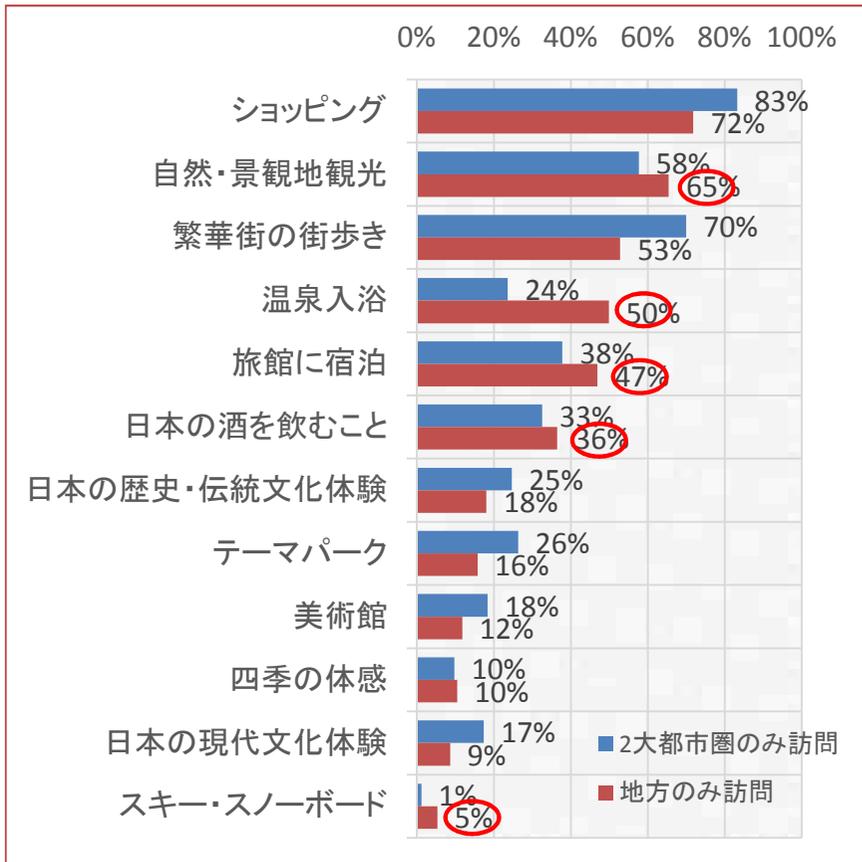
注1) 上記の数値は、平成26年1-3月期、4-6月期、7-9月期、10-12月期調査で得られた「観光・レジャー」目的客の回答による標本平均により算出した。

# 地方のみ訪問者は自然・景勝地観光や温泉入浴の実施率が高い

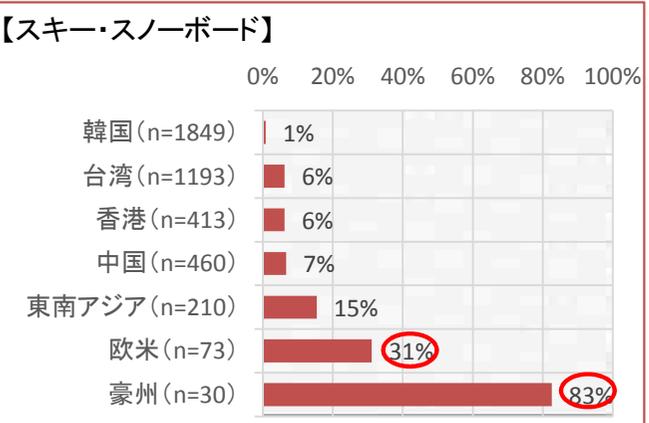
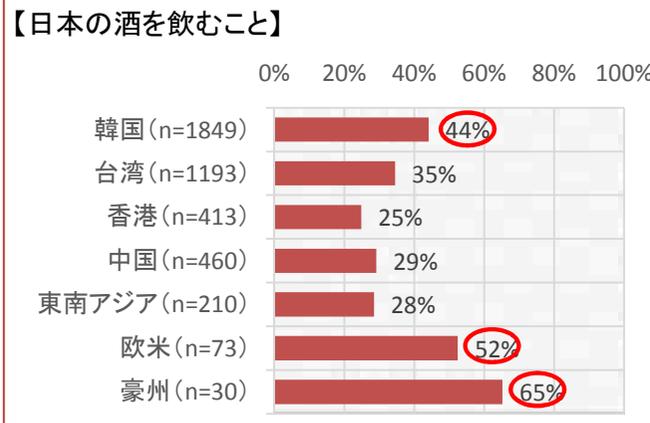
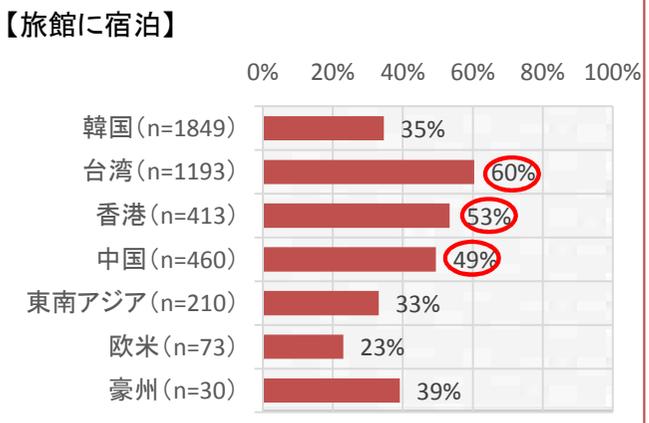
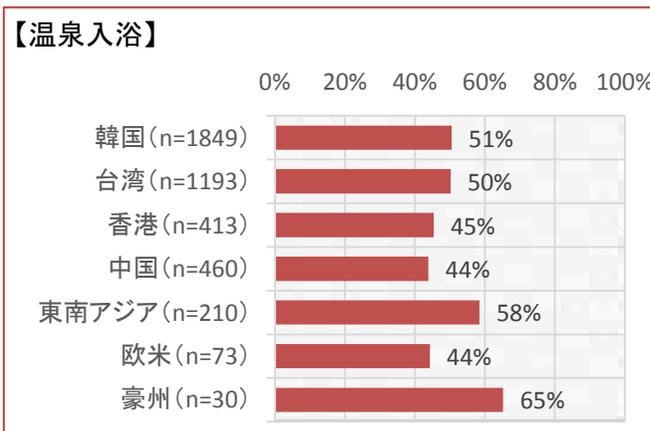
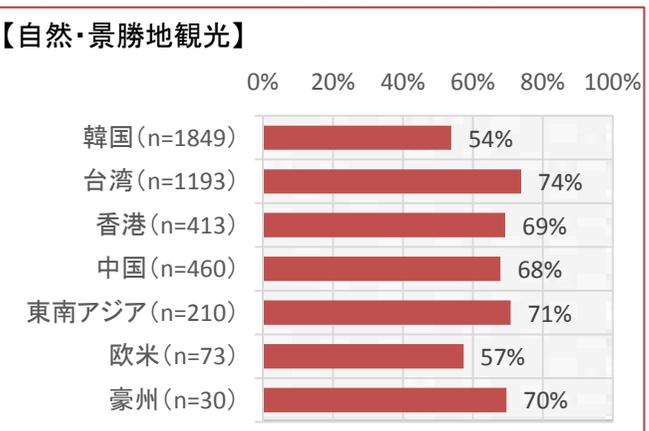


- 訪問地によって実施した活動がどのように異なるのかをみるため、「2大都市圏のみ訪問」と「地方のみ訪問」の活動内容を比較する。
- 「地方のみ訪問」の方が実施率が高いのは、「自然・景勝地観光」、「温泉入浴」、「旅館に宿泊」、「日本の酒を飲むこと」、「スキー・スノーボード」である。
- それらの活動について国籍・地域別に実施率をみると、「旅館に宿泊」は台湾や香港、中国、「日本の酒を飲むこと」は韓国や欧米、豪州、「スキー・スノーボード」は欧米や豪州で実施率が高い。

図表27 訪問地タイプ別の活動実施率(全国籍・地域)



図表28 地方のみ訪問者の活動実施率



注1) 全国籍・地域の数値(図表27)は、平成26年1-3月期・4-6月期・7-9月期・10-12月期の「観光・レジャー」目的の標本に対して国籍・地域別及び四半期別のJNTO訪日外客数によるウェイトバック処理を施して算出している。  
 注2) 国籍・地域別の数値(図表28)は、平成26年1-3月期、4-6月期、7-9月期、10-12月期調査で得られた「観光・レジャー」目的客の回答による標本平均により算出した。  
 注3) いずれの国籍・地域の訪問地タイプでも実施率が8割を超える「日本食を食べること」や、実施率が2割を下回る「ゴルフ」「舞台鑑賞」「スポーツ観戦」「自然体験ツアー」「映画・アニメ縁の地訪問」「治療・検診」を除く活動について、実施率の比較をした。